

(様式 2)

「秋田大学学生海外短期研修支援事業」実施報告書 (参加学生)

平成 23 年 10 月 14 日

所属：教育文化学部 国際言語文化課程 学年 2

氏名：後藤美咲

研修先大学・機関名等 (国)： Albert-Ludwigs-Universität Freiburg (ドイツ)

在籍身分：学生

渡航年月日： 2011 年 8 月 6 日

帰国年月日： 2011 年 9 月 3 日

○研修先での学習内容等

プログラム初日にプレイメントテストを行い、A~Jの10つのクラスに分けられた。私自身はCクラスに所属となった。プログラム自体、初級~中級レベルを対象としたもので、テストの内容は初歩的なもので、入門ドイツ語や基本ドイツ語と同じくらいのレベルだと思われる。

授業は午前9時から午後12時半までで、間に30分の休憩をはさんだ3時間の授業だった。Cクラスの担当教員は日本語が全く話せなかったため、ドイツ語(ときおり英語)での授業となった。Cクラスの授業は文法や精読というよりは会話を中心に行われた。毎授業ごとにプリントを配布され、その内容に沿って行われた。また教室での授業だけではなく、朝のマルクト(市場)へ行き授業で習った会話を実践してみたり、Cクラスの担任の先生の家へ行ったり、カフェへ行ったりと、座学だけではなく、実際に習った会話を実践する授業もあり、とても身になった。

また、平日の午後や週末はレクリエーションプログラムに参加することができ、私は黒い森ケーキ(黒い森地方の名物)の製造工場の見学、チューリッヒ(スイス)、ストラスブール(フランス)、コルマー(フランス)への日帰り旅行、ミュンヘンへの2泊3日の旅行に参加した。どれも現地の文化に実際に触れる機会となり、とてもいい経験になった。

○研修期間の生活面について

大学からトラム(路面電車)で5駅ほど(およそ20分)離れた学生寮で生活した。寮によって設備はまちまちだったが、私が生活した寮はキッチン、リビング、トイレ、シャワー、洗濯乾燥機が共用で部屋は個別に与えられた。

現地の学生との共同生活ではあったが、夏休みということも手伝ってか私が住んでいたフロアの学生は通常10名ほどのところが半分の5名しかいなかったことに加え、寮生と生活時間

(様式 2)

が異なっていたため、あまり顔を合わすことはなかった。

授業は午前中で終わるため午後は時間があり、私はプログラムで知り合った友人とフライブルク市内を散策したり、時には Titi See というフライブルクから少し離れた湖へ遊びに行くなどして楽しんだ。

食事は朝食は時間があればスーパーやパン屋で買ったパンを食べ、昼食は主に街にあるインビスやカフェで取ることが多かった。ドイツでは昼食に重きを置いていて、非常に量が多かったため夕食はとらないで済むことが多かった。キッチンの勝手が分からず、毎食外食ですませていたのでプログラムの終盤はお金のやりくりにも困ることになってしまったのが反省すべき点である。

○研修期間全般にわたる感想

1 年半ドイツ語を学び、基本的なことは理解できると言っても、まだまだうまく現地の人とコミュニケーションが取れているとは言えなかった。ドイツ人はとても親切で、私がドイツ語で話しかけられて、理解できていないのを見るとすぐに、同じことを英語で話してくれて、その後は英語での会話に切り替えてくれたりということをしてもらったので日常会話ではむしろ英語での会話が多かったのだ。

しかし、はじめは自分のドイツ語に全く自信がなく英語ばかり話していたが、実際の生活の中で自分の話すドイツ語が現地の人にも通じると、日本で学んだことを実践できた！と実感することができてとてもうれしかった。その後は自分から積極的にドイツ語を話すようにこころがけるようになった。すると日がたつにつれて周りの会話が耳に入ってくるようになったり、買い物やレストランで食事がスムーズにできるようになり、日に日に自分が成長していることを感じられて、ドイツ語でのコミュニケーションを怖いという気持ちよりも楽しい！という気持ちでとることができるようになっていった。

また今回初めてドイツを訪れて、人々や町並みはもちろん全てのものが日本とは違ってとても新鮮だった。また、今回滞在した町は環境問題に積極的に取り組んでいることで世界的にも有名な街であり、街の人々の多くが自転車を利用していたり、デポジットに取り組んでいたりと、日常生活の節々にそれが見受けられ大変興味深かった。

○今後の勉強計画

実際にドイツで生活してみて、自分の語彙力の少なさや会話力のなさを実感した。今後は文法ばかりではなく語彙を増やし、会話力をつけ、ドイツ人とドイツ語でコミュニケーションを取れるようにより実践的な勉強していきたい。そのためにドイツ語会話の授業でお世話になっているアスマン先生や、現地で知り合ったドイツ人学生に手伝ってもらいながらそれらを身につけていきたい。また、現地でドイツ語を学ぶ外国人用のテキストや児童書などを購入したのでそれらを生かし文法や精読の勉強に生かしたい。そして在学中に独検 2 級を取得したい。

(様式 2)

